

原 著

母親の養育態度に影響を及ぼす要因の検討 (II)

田 淵 創

川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科

(平成 5 年11月17日受理)

Investigation of the Factor Affecting Maternal Child-rearing Attitude (II)

Hajime TABUCHI

*Department of Medical Social Work
Faculty of Medical Welfare
Kawasaki University of Medical Welfare
Kurashiki, 701-01, Japan
(Accepted Nov. 17, 1993)*

Key words : maternal child-rearing attitude, the affecting factor,
quantification theory of II sort

Abstract

The purpose of this study is to investigate the factor affecting maternal child-rearing attitude by quantification theory of II sort. Own birth-order, schooling, the perception of her parents' rearing affect maternal child-rearing attitude as past factors and personality (stable-unstable dimension), relationship to her husband, children's birth-order, discrepancy between willingness-unwillingness to have a job and the status quo, sex-roles are also affecting present factors.

要 約

数量化II類を用いて、母親の養育態度に影響を及ぼす要因の検討を行った。その結果、過去の要因として、自分の出生順位、学歴、親から受けたしつけの認知などが、また現在の要因では、パーソナリティ(安定—不安定次元)、夫との関係、子どもの出生順位、就労意識と現実とのずれ、性役割観などが母親の養育態度に影響を及ぼしていることがわかった。

問 題

筆者は昭和40年代の後半、3度の調査を行い^{1)~5)}、親の養育態度に影響を及ぼす要因の検討を試み、図1に示すような結果を得た⁶⁾。この図はそれぞれの要因ごとに検定を行った結果をもとに、過去の研究等を参考にまとめあげたものである。従って、それぞれの要因の影響力の大きさについては多少なりとも恣意的な部分がないとは言えない。それから20年、数量化理論の確立、コンピュータの発達はこのらの要因の分析を容易にした。今回は数量化II類を用いて親の養育態度に影響を及ぼす要因の検討を行う。

方 法

調査対象者は大阪府下の3つの幼稚園、保育所に通う年中児・年長児をもつ母親221名。調査は1990年10月に行われ、それぞれの園を通じて調査票を各家庭に配布し、回収していただいた。有効回答数は168票で、有効回収率は76%であった。調査票は母親の養育態度を測定するための田中教育研究所の田研式両親態度診断検査（母親用）と養育態度の判別に寄与すると思われる要因を測定するための18の質問項目からなっている。

- 1 年齢
- 2 職業の有無

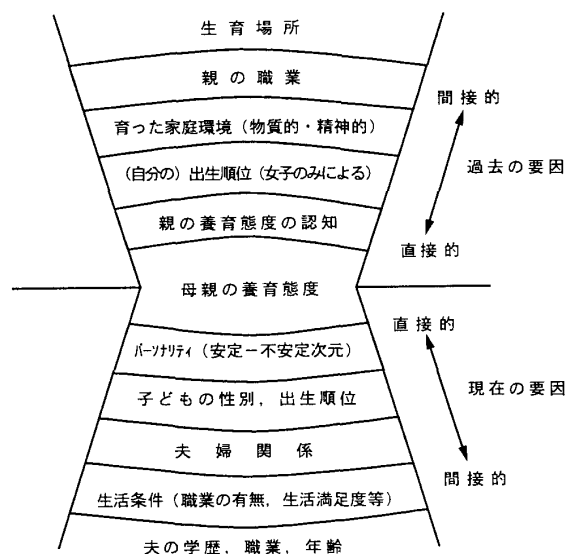


図1 母の養育態度に影響を及ぼす要因

- 3 同居か否か
- 4 学歴
- 5 出生順位（自身）
- 6 出生順位（調査対象児）
- 7 性別（調査対象児）
- 8 自分の両親の養育態度の認知（自分の受けたしつけ）

「田研・両親態度診断検査」を参考に、5つの養育態度のタイプにあてはまる10の質問を作成したものを使用した。20年前と同様。

（各々全くそうであった一全くそうでなかった4段階評定）

- 9 パーソナリティ
アイゼンク・黒田性格検査

（パーソナリティの基本的な2つの次元として、内向・外向・安定・不安定を抽出し、この2軸で分けられた各現象に胆汁質・憂うつ質・多血質・粘液質を対応させている。

さらにこれら4気質に該当する8つの項目特性をあげ、それによってパーソナリティを測定するようになっている。20年前と同様。）

- 10 育児情報接触態度
あなたはテレビの育児番組や新聞の育児欄をよく見たり読んだりしますか
あなたは育児関係の雑誌や育児書をよく買われますか
（よくする一全くしないの4段階評定）

- 11 子どもの将来の生活への希望
人間性豊かな生活をする } 人間性重視
社会に貢献する }
経済的に豊かな生活をする } 家庭重視
家族や周りの人たちと円満に明るく暮らす }
社会的地位を得る }
本人の個性や才能を活かした生活をする } 本人尊重
特にない（本人の意思にまかせる） }

（7項目より1つ選択）

- 12 子どもずきか否か
13 子どもが箸を正しく持てるかどうか
14 性役割観
育児は母親の役割である—私は外に出て働きたい
夫には家事をさせたくない—夫にも家事を手伝ってほしい
夫は仕事に専念してほしい—夫は家庭的であってほしい
(各々その通りだ、ややその通りだの4段階評定)
- 15 夫との接触度⁷⁾
夫は規則正しく帰宅する
休日是一緒に過ごすことが多い
夫は家事・育事を手伝ってくれる
夫婦で色々なことをよく話す
(各々、あてはまる—あてはまらないの4段階評定)
- 16 夫の理解度
お互いを理解し合っている
夫のために心からつくせる
(各々、あてはまる—あてはまらないの4段階評定)
- 17 生きがいの有無⁸⁾
(生きがいのある生活—さびしい生活の4段階評定)
- 18 収入への満足度
(十分満足、満足、やや不満、不満の4段階評定)
- 就労意識と現実のずれ
上記の性役割観で、「育児は母親の役割である」にその通りだと回答した主婦
専門の人と「私は外に出て働きたい」にその通りだと回答した仕事を持って

表1 20年前の母親との養育態度得点の比較

| | 第一調査 | 第二調査 | 第三調査 | 今 回 | 検 定 |
|--------------------|-------|-------|-------|-------|-------------------------------|
| 拒 否 (消極拒否・積極拒否) | 29.79 | 28.12 | 28.42 | 29.04 | |
| 支 配 (厳 格・期 待) | 28.92 | 27.99 | 28.33 | 29.05 | |
| 保 護 (過保護・不 安) | 28.22 | 27.11 | 26.98 | 26.99 | |
| 服 従 (溺 愛・盲 従) | 27.05 | 26.41 | 26.82 | 28.85 | 今回>第一 * 今回>第二** 今回>第三** |
| 矛 盾 (矛盾・両親の不一致) | 29.05 | 28.05 | 28.44 | 27.79 | |

注1 第一調査 1969年10月 芦屋市内の母親 80名

第二調査 1971年10月 姫路・芦屋・大阪市内の母親 286名

第三調査 1973年11月 芦屋市内の母親 178名

注2 得点はすべて40点満点、最低は10点で、得点の高いほど養育態度が良好である。

注3 検定はt検定で、**は1%水準で、*は5%水準で有意差が認められたことを示す。

いる人を就労意識と現実とが一致しているとし、逆の場合は不一致（＝ずれがある）とした。またこの設問にややその通りだと回答した場合はどちらでもない」と分類した。

なお、自分の受けたしつけ、育児情報接触度、性役割観、夫との接触度・理解度については、それぞれの得点を算出し、その得点によって、高得点群・中得点群・低得点群（性役割観については、伝統的性役割志向・どちらでもない・夫婦協業志向）の3つのカテゴリーに分類した。

結果とその考察

まず20年前の母親との養育態度を比較してみると表1のようになった。この結果、服従（溺愛、盲従）の項目で有意な差がみられ、近頃の母親は子どもをあまり甘やかさくなってきていることがわかった。最近では父親がやさしさを、母親がきびしさをもつようになり、その結果、父親と母親のイメージの差がなくなってきているといわれているが、その一部を実証したものとなった。

次に、それぞれの養育態度類型の得点の低いもの（その養育態度が好ましくない）の約3分の1を危険型、得点の高いもの（その養育態度に問題がない）の約3分の1を安全型、残りを中間型とした。それぞれの養育態度の特徴をより明確にするために、危険型と安全型この2つのタイプを外的基準にとり、上記の18の設問から得られた23要因（総カテゴリー数60、但し矛盾については21要因・総カテゴリー数54、表3

～7のアイテム名参照）を説明変数として取り上げ、数量化Ⅱ類による分析を行った⁹⁾。その結果が、表3～7である。また判別の精度を表す相関比（ η ）および各類型のサンプルスコアの平均値は表2の通りである。表3～7にはカテゴリーウェイトと偏相関係数を示したが、この偏相関係数（あるいはレンジ）が大きいほど、その要因が判別に寄与していることを意味する。なおレンジはアイテム・カテゴリーの反応数に大きく依存する危険があるので、ここでは偏相関係数をその基準とする。また、カテゴリーウェイトの方向は表2のサンプルスコアの平均値の方向と一致し、たとえば拒否の場合はカテゴリーウェイトがマイナスなら、そのカテゴリーは危険型、プラスなら安定型の特徴を示すといえる。（支配だけは逆となり、カテゴリーウェイトがマイナスなら、そのカテゴリーは安全型、プラスなら危険型）要するに、カテゴリーウェイトの方向と大きさから、そのカテゴリーが危険型あるいは安全型の特徴を示しているかを判別することができる。なお、アイテム横の数字は偏相関係数の大きい順に7番目までをしっている。それぞれの養育態度に影響を及ぼす要因の特徴はおおよそ次のようなものになる。

表2 サンプルスコアの平均値

| | | | | | | | | |
|----|-----|--------------|----|-----|--------------|----|-----|--------------|
| | | $\eta=0.399$ | | | $\eta=0.376$ | | | $\eta=0.465$ |
| 拒否 | 危険型 | -0.642 | 支配 | 危険型 | 0.597 | 保護 | 危険型 | -0.676 |
| | 安全型 | 0.621 | | 安全型 | -0.630 | | 安全型 | 0.687 |
| | | $\eta=0.408$ | | | $\eta=0.266$ | | | |
| 服従 | 危険型 | -0.408 | 矛盾 | 危険型 | -0.591 | | | |
| | 安全型 | 0.633 | | 安全型 | 0.450 | | | |

表3 数量化Ⅱ類による分析結果：拒否

| | アイテ ム 名 | カテゴリー名 | 危険型 (59) | 安全型 (61) | 計 (120) | カテゴリー ウェイト | レンジ/ 偏相関係数 |
|---|-------------|-------------------------------------|----------------|----------------|----------------|------------------------------|-------------------|
| | 年 齢 | 1 20代 2 30代以上 | 16 43 | 11 50 | 27 93 | -0.3061 0.0889 | 0.3950/ 0.1102 |
| | 職 業 | 1 無 2 有 | 37 22 | 38 23 | 75 45 | -0.1421 0.2368 | 0.3788/ 0.1155 |
| | 同 居 | 1 無 2 有 | 52 7 | 48 13 | 100 20 | -0.0288 0.1441 | 0.1729/ 0.0474 |
| ③ | 学 歴 | 1 中学・高校 2 専門学校・短大 3 大学・大学院 | 36 15 8 | 24 25 12 | 60 40 20 | -0.3717 0.4095 0.2961 | 0.7813/ 0.2557 |
| | 出生順位 (自分) | 1 第一子 2 第二子以下 | 23 36 | 20 41 | 43 77 | -0.2960 0.1653 | 0.4613/ 0.1137 |
| ④ | 出生順位 (子) | 1 第一子 2 第二子以下 | 25 34 | 15 46 | 40 80 | -0.5302 0.2651 | 0.7953/ 0.2462 |
| | 性 別 (子) | 1 男 2 女 | 31 28 | 30 31 | 61 59 | 0.0113 -0.0117 | 0.0230/ 0.0081 |
| | 父 拒否的傾向 | 1 高 2 中 3 低 | 9 39 11 | 6 40 15 | 15 79 26 | 0.2244 -0.1415 0.3005 | 0.4420/ 0.1418 |
| | 父 保護的傾向 | 1 高 2 中 3 低 | 18 27 14 | 12 30 19 | 30 57 33 | -0.2537 0.0758 0.0997 | 0.3535/ 0.1068 |
| | 母 拒否的傾向 | 1 高 2 中 3 低 | 14 36 9 | 10 36 15 | 24 72 24 | -0.0635 -0.0503 0.2144 | 0.2779/ 0.0782 |
| | 母 保護的傾向 | 1 高 2 中 3 低 | 8 44 7 | 8 44 9 | 16 88 16 | -0.1174 -0.0753 0.5314 | 0.6488/ 0.1393 |
| | 外向性 | 1 内 向 2 どちらでもない 3 外 向 | 20 22 17 | 13 29 19 | 33 51 36 | -0.1494 0.0901 0.0094 | 0.2395/ 0.0693 |
| ② | 安定性 | 1 安定 2 どちらでもない 3 不安定 | 16 29 14 | 28 28 5 | 44 57 19 | 0.4714 -0.1586 -0.6160 | 1.0875/ 0.2560 |
| ⑦ | 育児情報接触度 | 1 高 2 中 3 低 | 13 25 21 | 15 28 18 | 28 53 39 | 0.4295 -0.1839 -0.0584 | 0.6134/ 0.1756 |
| | こどもの将来 | 1 人間性重視 2 家庭重視 3 本人尊重 | 14 18 27 | 15 22 24 | 29 40 51 | 0.0431 -0.1229 0.0719 | 0.1948/ 0.0624 |
| ① | こどもずき | 1 好き 2 きらい | 30 29 | 47 14 | 77 43 | 0.3157 -0.5654 | 0.8811/ 0.2895 |
| | おはしのもち方 (子) | 1 正しく持てる 2 正しく持てない | 45 14 | 49 12 | 94 26 | -0.0186 0.0673 | 0.0859/ 0.0264 |
| ⑥ | 性役割観 | 1 伝統的性役割志向 2 どちらでもない 3 夫婦協業志向 | 13 19 27 | 25 18 18 | 38 37 45 | -0.2960 0.1572 -0.3792 | 0.6752/ 0.2071 |
| ⑤ | 就労意識と現実のずれ | 1 一致 2 どちらでもない 3 不一致 | 35 13 11 | 30 21 10 | 65 34 21 | -0.0980 0.4876 -0.4863 | 0.9739/ 0.2165 |
| | 夫との接触度 | 1 高 2 中 3 低 | 16 22 21 | 23 22 16 | 39 44 37 | 0.1812 0.1317 -0.3476 | 0.5287/ 0.1511 |
| | 夫との理解度 | 1 高 2 中 3 低 | 8 28 23 | 21 28 12 | 29 56 35 | 0.4104 -0.0779 -0.2155 | 0.6259/ 0.1493 |
| | 生きがい | 1 生きがいある生活 2 寂しい生活 | 35 24 | 40 21 | 75 45 | 0.1411 -0.2352 | 0.3763/ 0.1220 |
| | 収 入 | 1 満 足 2 不満足 | 38 21 | 41 20 | 79 41 | -0.1930 0.3719 | 0.5649/ 0.1593 |

子どもを拒否しやすい母親(=危険型)の特徴的な要因として、なんといってもまず子ども嫌いであることがあげられる。パーソナリティは不安定で、中学・高校卒の母親に比較的多くみられる。そして、就労意識と現実との間にはずれがあり、また夫婦で家事・育児を協力してやりたいと思っている(=協業的)のに、夫との接触度は低いというように、生活になんとなく不満があるような母親の姿が浮かんでくる。

表4 数量化Ⅱ類による分析結果：支配

| アイテ ム 名 | カテゴリー名 | 危険型 (58) | 安全型 (55) | 計 (113) | カテゴリー ウェイト | レンジ/ 偏相関係数 |
|-------------|------------|-------------|-------------|------------|---------------|---------------|
| 年 齢 | 1 20代 | 13 | 11 | 24 | -0.0995 | 0.1263/ |
| | 2 30代以上 | 45 | 44 | 89 | 0.0268 | 0.0330 |
| 職 業 | 1 無有 | 34 | 30 | 64 | 0.2940 | 0.6780/ |
| | 2 有 | 24 | 25 | 49 | -0.3840 | 0.1860 |
| 同 居 | 1 無有 | 53 | 47 | 100 | 0.0190 | 0.1652/ |
| | 2 有 | 5 | 8 | 30 | -0.1462 | 0.0373 |
| ③ 学 歴 | 1 中学・高校 | 35 | 25 | 60 | 0.3351 | 0.9483/ |
| | 2 専門学校・短大 | 16 | 21 | 37 | -0.2782 | 0.2464 |
| | 3 大学・大学院 | 7 | 9 | 16 | -0.6132 | |
| 出生順位 (自分) | 1 第一子 | 21 | 15 | 36 | 0.6461 | 0.9482/ |
| | 2 第二子以下 | 37 | 40 | 77 | -0.3021 | 0.1861 |
| ① 出生順位 (子) | 1 第一子 | 26 | 11 | 37 | 0.6678 | 0.9928/ |
| | 2 第二子以下 | 32 | 44 | 76 | -0.3251 | 0.2968 |
| 性 別 (子) | 1 男 | 26 | 29 | 55 | -0.2855 | 0.5562/ |
| | 2 女 | 32 | 26 | 58 | 0.2707 | 0.1883 |
| 父 支配的傾向 | 1 高 | 14 | 14 | 28 | 0.0140 | 0.1599/ |
| | 2 中 | 31 | 25 | 56 | -0.0592 | 0.0452 |
| | 3 低 | 13 | 16 | 29 | 0.1007 | |
| ⑦ 父 服従的傾向 | 1 高 | 22 | 14 | 36 | 0.3950 | 0.7991/ |
| | 2 中 | 24 | 23 | 47 | -0.0446 | 0.2122 |
| | 3 低 | 12 | 18 | 30 | -0.4041 | |
| ⑥ 母 支配的傾向 | 1 高 | 28 | 20 | 48 | 0.2974 | 0.8091/ |
| | 2 中 | 19 | 17 | 36 | 0.0156 | 0.2140 |
| | 3 低 | 11 | 18 | 29 | -0.5117 | |
| 母 服従的傾向 | 1 高 | 3 | 8 | 11 | -0.7992 | 0.9007/ |
| | 2 中 | 46 | 36 | 82 | 0.1015 | 0.1810 |
| | 3 低 | 9 | 11 | 20 | 0.0233 | |
| 外向性 | 1 内 向 | 15 | 16 | 31 | -0.2835 | 0.6478/ |
| | 2 どちらでもない | 22 | 25 | 47 | -0.0843 | 0.1806 |
| | 3 外 向 | 21 | 14 | 35 | 0.3643 | |
| 安定性 | 1 安定 | 22 | 23 | 45 | -0.2659 | 0.4627/ |
| | 2 どちらでもない | 28 | 25 | 53 | 0.1968 | 0.1478 |
| | 3 不安定 | 8 | 7 | 15 | 0.1021 | |
| 育児情報接触度 | 1 高 | 12 | 10 | 22 | -0.2382 | 0.3024/ |
| | 2 中 | 28 | 26 | 54 | 0.0642 | 0.0815 |
| | 3 低 | 18 | 19 | 37 | 0.0479 | |
| ⑤ こどもの将来 | 1 人間性重視 | 10 | 19 | 29 | -0.4105 | 0.8567/ |
| | 2 家庭重視 | 23 | 13 | 36 | 0.4461 | 0.2261 |
| | 3 本人尊重 | 25 | 23 | 48 | -0.0865 | |
| こどもずき | 1 好き | 40 | 36 | 76 | -0.0199 | 0.0607/ |
| | 2 きらい | 18 | 19 | 37 | 0.0409 | 0.0185 |
| おはしのもち方 (子) | 1 正しく持てる | 48 | 40 | 88 | 0.0679 | 0.3068/ |
| | 2 正しく持てない | 10 | 15 | 25 | -0.2389 | 0.0846 |
| 性役割観 | 1 伝統的性役割志向 | 24 | 21 | 45 | 0.0770 | 0.1572/ |
| | 2 どちらでもない | 15 | 13 | 28 | -0.0802 | 0.0424 |
| | 3 夫婦協業志向 | 19 | 21 | 40 | -0.0305 | |
| 就労意識と現実のずれ | 1 一致 | 29 | 28 | 57 | -0.0400 | 0.5646/ |
| | 2 どちらでもない | 16 | 13 | 29 | -0.2315 | 0.1087 |
| | 3 不一致 | 13 | 14 | 27 | 0.3331 | |
| ② 夫との接触度 | 1 高 | 20 | 14 | 34 | 0.6399 | 1.0868/ |
| | 2 中 | 23 | 25 | 48 | -0.1647 | 0.2688 |
| | 3 低 | 15 | 16 | 31 | -0.4469 | |
| ④ 夫との理解度 | 1 高 | 11 | 18 | 29 | -0.5846 | 1.1501/ |
| | 2 中 | 29 | 24 | 53 | -0.0109 | 0.2436 |
| | 3 低 | 18 | 13 | 31 | 0.5655 | |
| 生きがい | 1 生きがいある生活 | 35 | 40 | 75 | -0.1095 | 0.3257/ |
| | 2 寂しい生活 | 23 | 15 | 38 | 0.2162 | 0.0993 |
| 収 入 | 1 満 足 | 37 | 36 | 73 | 0.0379 | 0.1070/ |
| | 2 不満足 | 21 | 19 | 40 | -0.0691 | 0.0306 |

子どもを支配，すなわち，母親が子どもに対してきびしすぎたり，期待をかけすぎるのは，まず子どもが第一子である場合に多く，これも中学・高校卒の母親に比較的多くみられる。専業主婦で，パーソナリティはやや不安定，そして夫との接触度が高いほどこのタイプになる。他の結果とくらべて，すこし意外な気もするが，つぎのように理解すれば納得がいく。それはこのタイプになりやすい母親は，自分の親の養育態度を，父親が服従的で，母親が支配的であると認知している点である。すなわち，やさしい父親ときびしい母親に育てられ，自分の夫もまた時間通りに帰宅し，育児や家事を手伝ってくれるようなやさしい夫である。そのやさしい夫にかわって（自分の母親のように）子どもを支配していることは想像に難くない。そして，このタイプの母親は夫を（そのやさしさを）真には理解していない。

表5 数量化II類による分析結果：保護

| | アイテ ム 名 | カテ ゴ リー 名 | 危険型 (63) | 安全型 (62) | 計 (125) | カテ ゴ リー ウ ェ イ ト | レン ジ/ 偏 相 関 係 数 |
|---|-------------|-------------------------------------|----------------|----------------|----------------|------------------------------|--------------------|
| | 年 齢 | 1 20代 2 30代以上 | 13 50 | 15 47 | 28 97 | 0.3272 -0.0946 | 0.4217/ 0.1454 |
| | 職 業 | 1 無 2 有 | 34 29 | 38 24 | 72 53 | 0.0670 -0.0910 | 0.1579/ 0.0587 |
| | 同 居 | 1 無 2 有 | 56 1 | 52 10 | 108 17 | 0.0050 -0.0318 | 0.0368/ 0.0105 |
| ④ | 学 歴 | 1 中学・高校 2 専門学校・短大 3 大学・大学院 | 31 20 12 | 34 22 6 | 65 42 18 | 0.1473 0.1591 -0.9033 | 1.0624/ 0.2828 |
| | 出生順位 (自分) | 1 第一子 2 第二子以下 | 27 36 | 20 42 | 47 78 | -0.4029 0.2428 | 0.6457/ 0.1724 |
| ① | 出生順位 (子) | 1 第一子 2 第二子以下 | 31 32 | 17 45 | 48 77 | -0.6166 0.3844 | 1.0009/ 0.3670 |
| | 性 別 (子) | 1 男 2 女 | 30 33 | 33 29 | 63 62 | 0.1186 -0.1205 | 0.2391/ 0.1037 |
| | 父 拒否の傾向 | 1 高 2 中 3 低 | 6 39 18 | 10 40 12 | 16 79 30 | 0.0795 0.0051 -0.0559 | 0.1355/ 0.0318 |
| ② | 父 保護的傾向 | 1 高 2 中 3 低 | 27 27 9 | 8 31 23 | 35 58 32 | -0.6270 -0.0132 0.7098 | 1.3368/ 0.3612 |
| | 母 拒否の傾向 | 1 高 2 中 3 低 | 12 36 15 | 14 37 11 | 26 73 26 | -0.0416 0.0384 -0.0662 | 0.1046/ 0.0398 |
| | 母 保護的傾向 | 1 高 2 中 3 低 | 9 51 3 | 5 44 13 | 14 95 16 | -0.3207 -0.0346 0.4863 | 0.8070/ 0.1580 |
| ⑥ | 外向性 | 1 内 向 2 どちらでもない 3 外 向 | 17 25 21 | 18 21 23 | 35 46 44 | 0.2153 -0.3772 0.2231 | 0.6003/ 0.2322 |
| ③ | 安定性 | 1 安定 2 どちらでもない 3 不安定 | 22 29 12 | 25 30 7 | 47 59 19 | 0.4335 -0.1103 -0.7299 | 1.1634/ 0.2990 |
| | 育児情報接触度 | 1 高 2 中 3 低 | 15 24 24 | 12 27 23 | 27 51 47 | 0.0525 0.0536 -0.0883 | 0.1420/ 0.0585 |
| | こどもの将来 | 1 人間性重視 2 家庭重視 3 本人尊重 | 15 22 26 | 12 19 31 | 27 41 57 | 0.0155 -0.2732 0.1891 | 0.4623/ 0.1628 |
| | こどもずき | 1 好き 2 きらい | 45 18 | 41 21 | 86 39 | 0.0171 -0.0378 | 0.0549/ 0.0201 |
| | おはしのもち方 (子) | 1 正しく持てる 2 正しく持てない | 47 16 | 50 12 | 97 28 | 0.0427 -0.1479 | 0.1906/ 0.0684 |
| | 性役割観 | 1 伝統的性役割志向 2 どちらでもない 3 夫婦協業志向 | 26 19 18 | 19 22 21 | 45 41 39 | -0.2869 0.0983 -0.2277 | 0.5146/ 0.1696 |
| ⑦ | 就労意識と現実のずれ | 1 一致 2 どちらでもない 3 不一致 | 34 14 15 | 29 21 12 | 63 35 27 | -0.0751 0.3873 -0.3267 | 0.7140/ 0.1875 |
| ⑤ | 夫との接触度 | 1 高 2 中 3 低 | 19 21 23 | 22 29 11 | 41 51 34 | 0.2200 0.1927 -0.5486 | 0.7686/ 0.2551 |
| | 夫との理解度 | 1 高 2 中 3 低 | 10 33 20 | 22 31 9 | 32 64 29 | 0.3782 -0.1080 -0.1788 | 0.5570/ 0.1701 |
| | 生きがい | 1 生きがいある生活 2 寂しい生活 | 40 23 | 39 23 | 79 46 | -0.0301 0.0518 | 0.0819/ 0.0303 |
| | 収 入 | 1 満 足 2 不満足 | 40 23 | 46 16 | 86 39 | 0.0240 -0.0530 | 0.0771/ 0.0271 |

子どもをかますぎる過保護の母親のタイプの特徴は、まず自分が第一子であることである。おそらく長子(特に女子の長子)として、親に下の子の面倒を見るように期待され、そのようにしてきたのであろう。また、両親、とりわけ父親から保護的なしつけを受け、パーソナリティは不安定である場合によくみられる。学歴は高学歴(大学・大学院卒)であるが、性役割観は育児は母親の役割などとする伝統的なもので、夫との接触度・理解度ともに低い。

表6 数量化Ⅱ類による分析結果：服従

| | アイテム名 | カテゴリー名 | 危険型 (51) | 安全型 (52) | 計 (103) | カテゴリー ウエイト | レンジ/ 偏相関係数 |
|---|-------------|-------------------------------------|----------------|----------------|----------------|------------------------------|-------------------|
| | 年 齢 | 1 20代 2 30代以上 | 12 39 | 9 43 | 21 82 | -0.3719 0.0952 | 0.4671/ 0.1399 |
| ⑦ | 職 業 | 1 無 2 有 | 24 27 | 32 20 | 56 47 | 0.3403 -0.4055 | 0.7458/ 0.2156 |
| | 同 居 | 1 無 2 有 | 42 9 | 46 6 | 88 15 | 0.0592 -0.3470 | 0.4062/ 0.1064 |
| | 学 歴 | 1 中学・高校 2 専門学校・短大 3 大学・大学院 | 25 17 9 | 26 16 10 | 51 33 19 | 0.1239 0.1385 -0.5731 | 0.7116/ 0.1773 |
| | 出生順位 (自分) | 1 第一子 2 第二子以下 | 24 27 | 16 36 | 40 63 | -0.4060 0.2578 | 0.6638/ 0.1496 |
| | 出生順位 (子) | 1 第一子 2 第二子以下 | 16 35 | 15 37 | 31 72 | 0.3195 -0.1376 | 0.4570/ 0.1429 |
| | 性 別 (子) | 1 男 2 女 | 21 30 | 27 25 | 48 55 | 0.2412 -0.2105 | 0.4516/ 0.1659 |
| | 父 支配の傾向 | 1 高 2 中 3 低 | 10 31 10 | 13 23 16 | 23 54 26 | -0.0348 -0.0368 0.1073 | 0.1442/ 0.0420 |
| | 父 服従の傾向 | 1 高 2 中 3 低 | 17 27 7 | 17 16 19 | 34 43 26 | -0.1493 -0.1353 0.4190 | 0.5683/ 0.1742 |
| ⑤ | 母 支配の傾向 | 1 高 2 中 3 低 | 21 20 10 | 21 15 16 | 42 35 26 | -0.0473 -0.3243 0.5131 | 0.3374/ 0.2279 |
| | 母 服従の傾向 | 1 高 2 中 3 低 | 4 44 3 | 3 37 12 | 7 81 15 | 0.0082 0.0061 -0.0365 | 0.0448/ 0.0100 |
| | 外向性 | 1 内 向 2 どちらでもない 3 外 向 | 10 23 18 | 16 18 18 | 26 41 36 | 0.2866 -0.2204 0.0440 | 0.5070/ 0.1536 |
| | 安定性 | 1 安定 2 どちらでもない 3 不安定 | 18 24 9 | 19 25 8 | 37 49 17 | 0.1361 -0.0501 -0.1520 | 0.2881/ 0.0685 |
| ① | 育児情報接触度 | 1 高 2 中 3 低 | 14 24 13 | 8 23 21 | 22 47 34 | -0.4922 -0.2140 0.6143 | 1.1065/ 0.2979 |
| | こどもの将来 | 1 人間性重視 2 家庭重視 3 本人尊重 | 12 17 22 | 15 17 20 | 27 34 42 | 0.1183 0.1255 -0.1776 | 0.3031/ 0.1020 |
| ③ | こどもずき | 1 好き 2 きらい | 42 9 | 28 24 | 70 33 | -0.3111 0.6599 | 0.9711/ 0.2810 |
| | おはしのもち方 (子) | 1 正しく持てる 2 正しく持てない | 38 13 | 39 13 | 77 26 | 0.0176 -0.0520 | 0.0695/ 0.0226 |
| ⑥ | 性役割観 | 1 伝統的性役割志向 2 どちらでもない 3 夫婦協業志向 | 21 16 14 | 14 17 21 | 35 33 35 | -0.4014 -0.0014 0.4028 | 0.8043/ 0.2256 |
| ② | 就労意識と現実のずれ | 1 一致 2 どちらでもない 3 不一致 | 26 12 13 | 22 17 13 | 48 29 26 | -0.4914 0.2909 0.5828 | 1.0743/ 0.2823 |
| | 夫との接触度 | 1 高 2 中 3 低 | 20 16 15 | 19 18 15 | 39 34 30 | -0.1000 -0.1132 0.2584 | 0.3716/ 0.1069 |
| ④ | 夫との理解度 | 1 高 2 中 3 低 | 13 22 16 | 18 20 14 | 31 42 30 | 0.4604 0.0430 -0.5359 | 0.9963/ 0.2307 |
| | 生きがい | 1 生きがいある生活 2 寂しい生活 | 34 17 | 34 18 | 68 35 | -0.0575 0.1116 | 0.1691/ 0.0561 |
| | 収 入 | 1 満 足 2 不満足 | 32 19 | 37 15 | 69 34 | 0.0053 -0.0107 | 0.0160/ 0.0049 |

子どもを甘やかす服従型の母親は子どもが好きで、むしろ育児情報にもよく接触している場合である。自分も父親に甘やかされて育っており、このタイプのみパーソナリティの不安定性が全く影響していないのも特徴である。そして学歴は高学歴で、自分の就労意識にもとづいて仕事をしているが、性役割観が育児は母親の役割などとする伝統的なために子どもに対してうしろめたさを感じているような母親がうかんでくる。

表7 数量化II類による分析結果：矛盾

| | アイテム名 | カテゴリー名 | 危険型 (48) | 安全型 (63) | 計 (111) | カテゴリー ウェイト | レンジ/ 偏相関係数 |
|---|-------------|-------------------------------------|----------------|----------------|----------------|------------------------------|-------------------|
| | 年 齢 | 1 20代 2 30代以上 | 11 37 | 13 50 | 24 87 | 0.4079 -0.1125 | 0.5204/ 0.1039 |
| | 職 業 | 1 無 2 有 | 26 22 | 33 30 | 59 52 | 0.0615 -0.0697 | 0.1312/ 0.0331 |
| | 同 居 | 1 無 2 有 | 43 5 | 50 13 | 93 18 | -0.1098 0.5673 | 0.6771/ 0.1373 |
| ① | 学 歴 | 1 中学・高校 2 専門学校・短大 3 大学・大学院 | 27 16 5 | 23 25 15 | 50 41 20 | -0.5556 0.3145 0.7442 | 1.2998/ 0.2472 |
| ③ | 出生順位 (自分) | 1 第一子 2 第二子以下 | 23 25 | 19 44 | 42 69 | -0.5939 0.3615 | 0.9554/ 0.1650 |
| | 出生順位 (子) | 1 第一子 2 第二子以下 | 16 32 | 19 44 | 35 76 | -0.3593 0.1655 | 0.5247/ 0.1330 |
| | 性 別 (子) | 1 男 2 女 | 23 25 | 33 30 | 56 55 | 0.1268 -0.1291 | 0.2559/ 0.0723 |
| | 父 矛盾的傾向 | 1 高 2 中 3 低 | 10 24 14 | 9 25 29 | 19 49 43 | -0.1827 0.0491 0.0248 | 0.2317/ 0.0445 |
| ⑤ | 母 矛盾的傾向 | 1 高 2 中 3 低 | 11 26 11 | 14 24 25 | 25 50 36 | -0.0043 -0.2976 0.4164 | 0.7140/ 0.1620 |
| | 外向性 | 1 内 向 2 どちらでもない 3 外 向 | 13 20 15 | 20 24 19 | 33 44 34 | 0.1706 0.0201 -0.1917 | 0.3623/ 0.0778 |
| ④ | 安定性 | 1 安定 2 どちらでもない 3 不安定 | 14 25 9 | 26 29 8 | 40 54 17 | 0.3908 -0.2682 -0.0673 | 0.6590/ 0.1643 |
| ⑥ | 育児情報接触度 | 1 高 2 中 3 低 | 3 23 17 | 17 22 24 | 25 45 41 | 0.4161 -0.3094 -0.0859 | 0.7255/ 0.1537 |
| | こどもの将来 | 1 人間性重視 2 家庭重視 3 本人尊重 | 10 17 21 | 12 21 30 | 22 38 51 | 0.1448 -0.3253 0.1799 | 0.5053/ 0.1258 |
| | こどもずき | 1 好き 2 きらい | 33 15 | 40 23 | 73 38 | -0.0080 0.0154 | 0.0234/ 0.0057 |
| ⑦ | おはしのもち方 (子) | 1 正しく持てる 2 正しく持てない | 35 13 | 52 11 | 87 24 | 0.1509 -0.5469 | 0.6978/ 0.1520 |
| | 性役割観 | 1 伝統的性役割志向 2 どちらでもない 3 夫婦協業志向 | 17 18 13 | 16 22 25 | 33 40 38 | -0.1093 0.0104 -0.0840 | 0.1933/ 0.0401 |
| | 就労意識と現実のずれ | 1 一致 2 どちらでもない 3 不一致 | 27 11 10 | 29 18 16 | 56 29 26 | -0.1954 0.3934 -0.0181 | 0.5888/ 0.1347 |
| | 夫との接触度 | 1 高 2 中 3 低 | 16 21 11 | 23 21 19 | 39 42 30 | 0.0881 -0.2072 0.1756 | 0.3827/ 0.0887 |
| ② | 夫との理解度 | 1 高 2 中 3 低 | 9 23 16 | 18 29 16 | 27 52 32 | 0.4807 0.0217 -0.4408 | 0.9215/ 0.1702 |
| | 生きがい | 1 生きがいある生活 2 寂しい生活 | 28 20 | 44 19 | 72 39 | 0.0804 -0.1484 | 0.2288/ 0.0580 |
| | 収 入 | 1 満 足 2 不満足 | 33 15 | 42 21 | 75 36 | -0.0629 0.1310 | 0.1938/ 0.0465 |

しつけが一定しない矛盾型は、中学・高校卒の母親で、夫との理解度が低く、自分は長子で、パーソナリティはやや不安定、また第一子に対して矛盾したしつけをおこないやすい。さらに因果関係から言えば逆ではあるが、このタイプの母親の子どもはおはしが正しくもてない。

表 8 養育態度タイプ別要因の特徴

| | 拒否型 | 支配型 | 保護型 | 服従型 | 矛盾型 |
|---------------------|-----|------------|------------|-----|------|
| 職業の有無 | | 無 | | 有 | |
| 自分の学歴 | 低 | 低 | 高 | 高 | 低 |
| 出生順位 (自分) | | 第一子 | 第一子 | | 第一子 |
| 親の養育態度の認知：母 ：父 | | 支配的 服従的 | 保護的 保護的 | 服従的 | |
| パーソナリティ (安定－不安定) | 不安定 | | 不安定 | | 不安定 |
| 出生順位 (子) | 第一子 | 第一子 | 第一子 | | 第一子 |
| 性別 | | 女 | | 女 | |
| 育児情報接触度 | 低 | | 高 | | |
| 子どもの将来 | | 家庭重視型 | | | |
| 子ども好きかどうか | きらい | | | 好き | |
| おはしの持ち方 | | | | | 持てない |
| 性役割観 | 協業的 | | 伝統的 | 伝統的 | |
| 就労意識と現実のずれ | 不一致 | | 不一致 | 一致 | |
| 夫との接触度 | 低 | 高 | | 低 | |
| 夫との理解度 | | 低 | 低 | 低 | 低 |

(偏相関係数 .15以上：どちらでもないは除く)

表3～7から判別に寄与する要因を抜き出し、まとめたものが表8であるが、全体的にみると、過去の要因では、自分の出生順位（第一子の場合がいずれも好ましくない：20年前の結果でも長女である母親の養育態度得点が最も低かった）、学歴、親から受けたしつけの認知などが、現在の要因ではパーソナリティ（安定－不安定次元：20年前の結果でも内向－外向次元では差がみられず、不安定群の養育態度得点が有意に低かった）、夫との関係、子どもの出生順位、就労意識と現実とのずれ、性役割観などの母親の養育態度に影響を及ぼしている。その一方で、母親の年齢、子どもの性別（但し、女兒を女らしく家庭的に育てようとする場合にはやや支配的になる）、同居、収入への満足度などにはあまり母親の養育態度に影響を及ぼしていない。これらはいずれも最近の少子化・核家族化の世相を反映した結果といえるであろう。

ま と め

数量化Ⅱ類を用いて母親の養育態度に影響を及ぼす要因の検討を行ってきたが、今回得られた結果は、20年前におこなった調査とすべての要因がかならずしも一致はしているわけではないが、20年前に作成した母親の養育態度に影響を及ぼす要因の図を追認したものといえるであろう。

末筆ながら、本調査にあたって貴重なアドバイスをいただきました関西学院大学田中國夫教授（現追手門学院大学教授）、調査を担当した湊かおりさん（平成二年度関西学院大学社会学部卒）に深く感謝いたします。

文 献

- 1) 田淵 創, 田中國夫 (1970) 親の養育態度に影響及ぼす要因の検討. 関西心理学会第82回大会発表論文集, 35.
- 2) 田淵 創, 田中國夫 (1973) 親の養育態度に影響を及ぼす要因の検討(2). 日本教育心理学会第15回総会発表論文集, 278—279.
- 3) 田淵 創 (1973) 親の養育態度に影響を及ぼす要因の検討. 関西学院大学社会学部紀要, **27**, 67—77.
- 4) 田淵 創 (1974) 親の養育態度に影響を及ぼす要因の検討(3). 日本心理学会第38回大会発表論文集, 608—609.
- 5) 田淵 創 (1975) 親の養育態度に影響を及ぼす要因の検討(4). 日本教育心理学会第17回総会発表論文集, 394—395.
- 6) 田淵 創 (1974) 親の養育態度に影響を及ぼす要因の検討. 関西学院大学大学院社会学研究科修士論文, pp. 177 (未刊).
- 7) 野村泰代 (1986) 母親の養育態度に関する研究. 日本教育心理学会第28回総会発表論文集, 34—35.
- 8) 森永康子 (1987) 主婦の充実感と家庭生活に関する研究. 日本心理学会第51回大会発表論文集, 497.
- 9) 伊藤裕子 (1978) 性役割の評価に関する研究. 教育心理学研究, **26**(1), 1—11.